岡山畜産便り 1964.01

新 春 特 集

新しい時代への畜産の課題

中央畜産会専務理事　神　尾　正　夫

わが国の畜産は、国民所得の向上、食糧消費構造の高度化にささえられて畜産物の需要は、今後とも大幅に伸びるであろうことは大方の意見の一致するところであります。一応表面的には、畜産はめざましい発展をとげているのでありますが、近時農村における労働力の不足、他産業と農業所得との格差の拡大、更に貿易の開放等一連の農業諸情勢の推移に伴いまして、日本の畜産も日本国内だけでなく、国際競争の場裡におかれることになりますので、技術、経営の革新に迫られている実情にあるわけであります。

もちろん先進農家におきましては、これに即応して、多頭羽飼育による規模の拡大、企業化へと前進をくわだてられる趨勢にあり、喜ばしいところでありますが、今後市場の動向に対処し、かつ海外競争に対抗し得る安定した経営を樹立するためには、飼料需給基盤の整備、生産物、生産資材の価格安定、家畜、家禽の改良等の施策が必要であります、が経営者自体におきましても、飼養管理技術の向上、経営規模の適正化、生産物販売機構等の体質改善を積極的に進め、早急にコストの引き下げに努力しなければなりません。特に現下の食肉需給のアンバランスからくる食肉価格の暴騰、更にこれが反動、乳価値下げの問題、飼料価格の上昇傾向等の国内問題の外、食肉、乳製品の輸入、チキン戦争の余波を受けてのブロイラーの輸入増加の気配、その上乾燥、冷凍卵の輸入も取りざたされている等、対外的影響は、今後益々高まろうとしていることを考えますと、わが国畜産としては、正に大きな試練に立っているといわねばなりません。

生産物の販売流通等価格安定

以上の諸情勢から当面する特に大きな問題は、生産物の販売流通問題等価格の安定であろうと考えられます。もとより生産物の価格の安定は、生産と消費が車の両輪の如く均衡がとれて、始めて安定した産業として、発展するものでありますが、現在わが国の飼養規模形態をみますと、未だ零細経営が主体となっており、従って、今後とも生産物や飼料の価格に支配され、飼養頭羽数の消長があるものとみられます。加えて、世界経済の余波が押寄せ、一時あるいは、相対的でありましても、多少の価格の変動は免れ得ない実情にあると思われます。

地域生産者の団結

今後農業構造の改善を目標に、経営の質的改善を標榜されている点もここにあるのであります。そのため、従来の観念から脱却した経営の体質改善に迫られているところであります。特に今後益々取引市場の拡大の状況下におきましては、従来のように作ればよいといった単なる生産技術から、売る技術、更に買わせる技術における工夫、改善に迫られているので、農業基本法に示された、適地適産、しかもその生産基盤となる資材、飼料、労働力、技術、人員構成をたくみにとり入れ、生産性を高め、貿易の開放に耐え得る経営の樹立が必要とされます。そのため生産物の規格の統一、大量取引、計画的、継続的出荷が不可欠の要素となっているところであり、そのため、農家個々の力では買手市場に押しきられ、不利な取引きを余儀なくされることにもなりますので、地域生産者がお互いに団結し、力を結集することにより、たとえ生産者個人としては、資本、技術等多少欠けるところがありましても、１人の力よりも 10 人の力､10 人の力よりも 100 人の力といった地

域全体の結集によって強力な企業的経営が成立し得ることとなりますので、地域内生産者の意識の統一は正しい意味で、市場の動向に対抗し得る力、実力が生まれるものであります。そのため、多頭羽飼育と協業経営を主軸として、集団、主産地形成を進め、生産物の処理、輸送および販売にわたる一貫した合理性を確立することが必要であり、単純な規模拡大や機械化による個別経営の改善だけでは、不安定な経営から脱出できないので、経営内他部門との競合を考え、技術、資本等から生産性向上の成立条件が確立された基盤の上に進めるべきであります。

ともあれ、畜産が生長産業といわれるにふさわしい経営の体質改善を図り、新しい年を迎え今年こそ緊褌一番、安定経営の推進を期待したいものであります。

指導体制の強化が急務

こうした農業の畜産の本質的体質改善に一大飛躍を遂げる意義ある年にあたり、岡山県の畜産農家の皆さま方に謹んで新年のお慶びを申しあげると共に、９年目を迎えようとする畜産技術経営診断事業にかねてより御理解と御協力を賜っておりますことを改めて厚くお礼申しあげる次第でございます。

過去８年間幾多の困難にぶつかって来た経営診断事業も、昨年は専門技術職員の設置等陣容の強化が出来、岡山県畜産会をはじめ中央、地方畜産会の体制が整備されて、畜産の伸展と共に畜産の指導体制が組織化されて参りましたことをこの上もなく喜びと存じます。今年度は国の方針も経営診断のみにとどまらず、コンサルト団を全国的に組織、県事業とタイアップして、儲かる畜産経営の指導機能を拡充する計画やに、もれうけたまわっております。このことは我々畜産会に関係している者のかねてより要請したことであって、国が更に抜本的組織整備を施策の上に具体化していくことを望むと共に、畜産伸展の為に官民一体となった指導力体制の強化を軸として畜産農家の繁栄に寄与出来ることを喜びとする次第です。今年はムード畜産から希望のもてる畜産へと皆さん方の努力が実を結ぶ年になりますよう祈って止みません。

本誌の統合を祝す

これらの伸展にさきがけて岡山県では、畜産の指導広報誌を本号より発展的に統合、文字通り官民一体となって畜産団体を含めた統合版に発展し得たことを心からお慶び申しあげます。今や個々ばらばらでは効果をあげることの出来難くなっているとき、畜産経営でも協業なり集団化なりに進んでいるのと同様に、指導機関の統合、強化は時代を一歩進めるものです。統合版発足に際して県や各団体が小を捨て、大を活かした寛大さと協力精神に満腹の敬意を表すると共に、本誌がその協力組織の上に永遠に続き、畜産農民の友として発展、畜産にたずさわる人々の必須のものと親しまれることを心から望む次第です。

年頭にあたり読者皆さまに御挨拶旁々所信を述べさせて戴き、併せて「岡山畜産便り」統合のお慶びを申しあげ、岡山県の農家の一層の団結をお祈り致します。

著　者　略　歴

昭和４年　東京帝国大学農学部卒
昭和 23 年　農林省畜産局有畜営農課長
昭和 30 年　農林省畜産局畜産課長
昭和 31 年　飼料需要安定審議会委員
昭和 32 年　社団法人中央畜産会専務理事
昭和 36 年　農水産物輸出会議委員
昭和 36 年　畜産振興事業団理事
昭和 36 年　農林水産技術会議専門委員